

研究計画書

ゼミ名	寺尾ゼミⅡ	チーム名	寺尾ゼミナール第11期生
タイトル	ぼくたちの経済		
テーマ群	a) 理論・情報		
メンバー	阿部 真希 石井 祥太 潤井 克弘 金田 憧己 河瀬 慶之 才巻 優平 鈴木 まや 仙崎 潤 瀧本 仁 竹森 祐希 辻本 茉弓 藤江 純一 松本 和也 三浦 稜司 村上 文彬		
研究計画内容	<p>[研究目的]</p> <p>「グローバル化」「フラット化」「オープン化」——わたしたちの経済は、ほんとうのところ、どのような経済なのだろうか。いま起きていること。これから起こるかもしれないこと。それらは、わたしたちにどのような影響を与えるのか。わたしたちは、どうすればよいのか。わたしたちにできることはあるのか。本研究は、「わたしたちがいま、どのような経済のなかで生きているのか」を正しく理解するための理論的な枠組を提供する。</p> <p>[研究内容・方法]</p> <p>アベノミクス、異次元緩和、3Dプリンター、使い捨て経営、EXILE問題、iOS8、ハイレゾ、昭和な会社、消費増税、大西洋シフト、1ドル100円時代、ネット仮想通貨、スタバ全国制覇、街角景気指標、スピード経営、USJ効果、SNS新卒採用、イノシシ問題、LINE上場延期、ビックデータ——このようなことは相互に関係があるのか。関係があるとしたら、それは、どのような種類のものなのか。あるいは、これらの事象は、統一的に理解できるのか。これらの問題意識のもと、理論的な分析を行うことによって、目まぐるしく変わる経済現象のなかの変わらないものを析出する。</p> <p>[期待される成果]</p> <p>上で述べたような内容・方法の研究によって得ることが期待される成果は、わたしたちの経済のほんとうの姿が明らかになること、そのことに関連して、わたしたちの経済を支配している法則性や規則性が明らかになること、そして、わたしたちの経済がこれからどのように変わっていくのか（あるいは、変わらないのか）が明らかになること、さらに、これらのことが明らかになることによって、わたしたちがどのように考え、いかに判断し、何を指して行動すべきであるのかについての「指針」がもたらされることである。</p>		